

# 防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会  
会報 第196号(2023. 6. 1)  
事務局 川西地区自主防災会

## 学校法人 藤井学園の取り組み

### 概要

1924年（大正13年）に藤井和市翁が丸亀女子教員養成学校として創立され、藤井高等女学校、藤井女子商業学校と変遷し、戦後の学制改革を経て、男女共学制の香川県藤井高等学校、香川県藤井中学校、藤井学園寒川高校の3校に発展した本学園は、本年（2023年）に100周年を迎える歴史と伝統のある私立学校です。藤井和市翁の「学校は真の人間教育を行う道場である」という建学の精神と輝かしい伝統を礎として、地域から信頼され愛される学校づくりに取り組んでいます。校訓である「誠実・勤勉・礼節」に加えて「個々の能力を伸ばす」をテーマに、現代社会で活躍できる人材を輩出すべく、学業、スポーツ、芸術などの分野で新しい取り組みを打ち出しています。好奇心旺盛で元気がいっぱいな藤井中学校の生徒たちと、2学科5コースに在籍する個性豊かな藤井高校の生徒たちが主体的・協調的に参加できる学校行事を創ることにより、世界レベルの視野をもち夢や志を実現すべく何にでも楽しく真剣に挑戦できる学び舎です。

おかげさまで創立100周年

100<sup>th</sup>  
anniversary



## 今までの防災教育

本校での取り組みは、年 2 回定期的を実施しております。1 回は、「火災訓練」です。昔からよく行われている集団行動訓練です。緊急放送、火災場所の報告・確認、避難経路を通過してグラウンドに集合する。担当教員の講評があり実技訓練を行います。実技訓練は、水消火器を利用しての消火訓練です。2 回目は、「防災訓練」としてシェイクアウト訓練を実施しております。緊急放送、誘導担当の指示による避難経路を通過して緊急避難場所（津波避難ビル）に指定されているユリーカホール3階に集合する訓練です。こちらは、水平避難ではなく垂直避難を体験します。併せて火災報知器等の緊急放送機器の点検・確認も行います。



避難の様子（ユリーカホールへ移動途中）



集合の様子（体育館）



集合の様子（ユリーカホール）



消火訓練（１）



消火訓練（２）

また、周辺自治会の防災担当者が学校を訪問して、「津波避難ビル」の構内見学を行っています。こちらは、授業等の差支えがない場合は随時見学ができるように対応しております。昨今高校では、「持続可能な地域づくりと私たち」の单元において「自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解すること。」となっておりあらゆる面で地域連携について考えるようになっており、本校でも地域とのかかわりを増やしていこうと模索しているところです。

### 防災教育の課題

現在の本校での取り組みには次のような課題が考えられる。

- ・ 地域特有の防災課題に応じた避難訓練を実施できていない。
- ・ 避難訓練内容が形骸化している。
- ・ 正常性バイアス等の必要な防災知識が教えられていない。
- ・ 防災教育に当たり、地域と学校の一層の連携が必要である。
- ・ 災害の少ない香川県において危機感が伝わりにくく、自分事になりにくい。

## 新しい防災教育の取り組み

今回は、防災に関して身近に考える「きっかけづくり」を目標とし、災害発生時に各自が迷いなく自らの命を守れる行動がとれるためのトレーニングができるイベント型の「防災教育」を取り入れることにしました。



<運営・制作：凸版印刷株式会社/防災 Revo>

改めて知り、自ら考え身の回りにあるもので身の安全を確保する大切さを学ぶため、若い世代に人気の「謎解きゲーム」を防災教育と融合した新たなイベント型防災訓練です。

一方的に情報を覚える座学とは異なり、ファシリテータによる被災体験や謎解きゲームで自ら導き出した防災キーワードについて詳しい映像や画像をみながら学びます。

そして新たな謎解きに挑戦することを繰り返すことで集中力が途絶えることなく、学ぶことができます。その結果、

このイベントは、防災 Revo（株式会社フラップゼロアルファ）と凸版印刷株式会社が運営制作をしているイベントを実施しました。

「インパーソン型防災アトラクション」はこのタイミング<2022. 10. 5>は全国で初開催となりました。

計画時点で PTA 会長に相談をしたところ、中学校・高校の両会長より快諾をいただき、保護者の皆さんに案内し生徒とともに体験いただくこととしました。

このイベントは、「公助に頼らない人作り」「自助・共助の体験と育成」を目的とし、災害発生時には消防車も救急車も助けに来てはくれないことを



考える習慣（防災意識）が身につく仕組みになっています。

今回は、「地震編」に取り組みます。3つのステージに分かれた構成になっています。

①地震が発災直後の対応＜自助＞について考えます。

②発災時に必要となる「協力」「発想」「冷静さ」などを駆使して、起きる問題に  
対処する方法＜共助＞を制限時間内に考えます。

③分散避難や在宅非難を想定して備蓄品など＜安全確保＞を考えます。



「防災講演会」と促され体育館に入った生徒たちの表情が明るく楽しそうになり、真剣に謎解きゲームに取り組んでいました。また、災害時に役立つ実技も体験しながらあっという間の防災教室になりました。

それぞれのステージで出題される課題に生徒全員で解答を導き出します。座学や体験学習で正しく身につけているか確認することができます。さらに、スピーディーで正確な判断力が必要になります。



実施後のアンケートにも「楽しく理解できた」や「役に立つ内容で充実した時間になった」「防災について考える時間になった」「家族と話すことの大切さがわかった」など、ねらい通りの結果となり、防災について考えるきっかけづくりができました。

また、全国で起きている災害についてもっと詳しく学ぶことを目的として自衛隊香川



地方協力本部にご講演を依頼して大震災の事実を学習することができました。顔なじみの先生が授業をするのと違い、実際に現地で活動した方の写真や動画を含めお話しいただきました。

これからも、生徒が「楽しく真剣に挑戦できる学び舎」を目指して防災教育にも取り組んでいきたいと思っております。



今月は最近の活動を紹介したいと思います。

## かがわ自主ぼうが5月に実施した活動を紹介します

### 1. 令和5年5月23日（火）10.20～12.20

（社）香東園特養老人ホーム絹島荘（施設長 三浦誠子氏）にて、地域を巻き込んだの防災訓練を実施。

施設利用者及び施設職員 60名と  
地元周辺自治会 40名による防災訓練。

カリキュラムとしては

- ・ダンボールベットの組立訓練
- ・たきだし食作成の注意点の説明
- ・生活する中での防災に対する留意点  
（特に福祉施設と地域住民との連携・協調）
- ・マキ火力によるたきだし食作成



<実にさわやかな輪のとれた訓練になりました>

### 2. 令和5年5月26日（金）13.00～14.50 香川県立坂出工業高校の防災訓練当日の カリキュラム

- ・ 13.00～13.05 全校生徒 運動場への避難訓練
- ・ 13.10～20 訓練開会行事
- ・ 13.20～①1年生（4クラス） 聖通寺山への避難訓練  
②2年生（4クラス）3年生（4クラス）運動場において4種目の防災訓練  
・ ロープワーク ・ 担架組立 ・ 搬送 ・ 応急手当訓練 ・ 水消火訓練
- ・ 14.40 閉会行事
- ・ 14.50 解散

### 訓練終了後のコメント

- ・ 4年ぶりの訓練であったにもかかわらず、全校生、素直にこたえていただき、指導者全員好評であった。
- ・ 近隣の4つの自治会（自主防災会）約60人が合同参加。イザに備えてのお互い顔の見える関係構築がはかられていると強く感じました。  
（地元坂出内浜西自主防災会と川西地区自主防災会がアドバイザーを担当しました）



3. 令和5年5月27日（土）～28日（日）10.00～17.00（最終日は16.00）県民防災対策促進イベントが土庄マルナカ店にて開催された。

- ・ 地方の商業施設、イベントするだけのスペースが無い中、マルナカ土庄店様のご尽力をいただき、場所をお貸しいただいた事にまずはお礼を申し上げたい。
- ・ 217名の皆さんに立ち寄っていただいた。更にアンケート調査にも半数近くの参加をいただきました。
- ・ 関係者の皆さんの熱意のたまものと思います。動線上、厳しい中での取組み、それと初回ということもありましたが、この参加人数、成功と言えるでしょう。（防災をテーマにしたイベントの苦しさを感じている者としての感想です）
- ・ 今後に向けて、目につく看板の設置（大きい商業施設では必要です）
- ・ 説明要員含め、関係者が多すぎると、参加したいと思っている人がさける要素があります。このあたりも検討要です。



## 編集後記

6月の防災減災の輪は、藤井学園 事務長大西様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。